

オンライン伴走支援を通して地域格差の是正に挑戦！ “誰ひとり学びから取り残さない”子ども支援DX化プロジェクト

採掘事業者名

認定特定非営利活動法人カトリバ

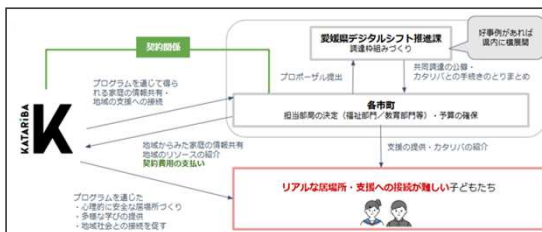
コンソーシアム構成員

宇和島市 保健福祉部 こども家庭課 | 認定NPO法人CLACK

勉強会の実施概要			
コンソ内部のみ		含む外部	
実施回数の累計	1	実施回数の累計	12
参加人数の ユニーク累計	5	参加人数の ユニーク累計	31

代表的な実施事例

狙いとゴール	自治体ごとの方針や支援ニーズを正確に把握し、それに応えられる形でプログラムを提案することで、プログラム導入のハードルを下げ、より広範な地域での実装を目指す。
実施の成果	自治体の福祉・教育領域の関係者との協議を通じ、自治体が感じている課題や支援ニーズを把握できた。その結果、プログラム利用希望があった自治体との共同調達スキームの立ち上げに成功し、次年度以降の実装地域拡大の目途がたった。
実施アジェンダ 協議内容	① 過去2年間のキッカケプログラムの活動実績や効果の説明 ② 各自治体が抱える課題や支援ニーズ、導入にあたってのハードルのヒアリング ③ ②に応える解決策として、共同調達スキームを提案し、実施に必要な論点を整理
参加者の一例	・愛媛県庁 保健福祉課、子育て支援課 ・南予・東予・中予地方局の地域福祉課 ・八幡浜市、伊方町、松野町、松前町、愛南町、鬼北町の福祉・教育関係者 ・宇和島市の教育委員会、子ども食堂
次年度以降の 想定アクション	宇和島市・鬼北町での共同調達による導入事例を他の市町にも共有し、新たな自治体からの参画を募る。



自治体に左図のような共同調達スキームを提案。キッカケプログラムの活用を希望する市町を県がとりまとめ、共同で入札を行う形。

あわせて、支援メニューを自治体の支援ニーズに応じてカスタマイズすることも提案。

データ活用・協議の具体例

重要指標例	実装前		実装後	
	データ取得	・地域支援者からの家庭情報（過去～現在までの支援状況、家庭環境、家庭が抱える課題等） ・子どもとのオンライン面談で得られるデータ（家庭、学校での様子、悩み、興味関心等） ・保護者とのオンライン面談で得られるデータ（同上） ・子どもが参加する学習講座から得られるデータ（学習状況、興味関心、他者との関わり方等） ・半期（6か月）毎のプログラム効果の検証指標データ（プログラムを通じた家庭の変化）	・オンラインで情報を取得でき、時間・労力面で効率化が可能。 ・情報取得の頻度：子どもは週に一度、保護者は月に一度。最新状況に即した支援提供が可能。	
	データ利活用	・支援者の所属部署ごとに決まった記録方法でデータを管理・活用 ・情報共有は必要に応じて実施	・子ども・保護者両面の情報を得られることで家庭を立体的に捉え、「家庭まるごと」の支援方針を立案・更新できる。 ・研究者と共同開発した指標を用い、家庭の変化を分析。	
	実行	・得られた家庭情報をもとに支援方針を検討し、家庭へアプローチ。 ・関係者間で協議するケースを除いて、細かな対応の仕方は支援者個人の理解や経験に依る。	・データを基に月次報告書を作成し、地域支援者に共有。 ・報告書をもとに、地域支援者と一緒に家庭に必要な支援を検討する場を設け、オンライン・オフライン双方でのハイブリッドな支援を実現。	
	協議・業務反映	同一組織内での情報共有や対応は柔軟に行える。一方で組織をまたぐ情報連携の難易度は高い場合もある。	・月次報告書を共有することで、関係者が同じ目線で家庭にかかわれる体制となった。 ・宇和島市では、子ども食堂とも連携し、行政・子ども食堂・カタリバという多様なチャネルから、そのとき最も適した関わり方ができた。	

代表的な実施事例

- ・キッカケプログラムの中で気になる家庭の情報を入手した際、カタリバ内の専門家とも情報を精査したうえで自治体に共有し、地域およびカタリバ双方から必要な支援や見守りを行うことができた。
- ・子どもの進路について、子どもや保護者の悩みや希望をキッカケプログラムの中で把握し、それに基づいた奨学金情報や進路選択に役立つ情報を提供することができた。